

# 『ゆらゆら』 寸評

- ・さだまらぬきもちが上手に表現されている
- ・2小節モチーフとその反行形がくりかえされ、m.8で半終止（属和音上におさまる）におちつかなさを感じとれる
- ・全体を下行形の動きが支配しており  
しんみりとしたやるせなさが伝わってきます
- ・各モチーフが和音の根音以外におさまっているのも  
上記の表現を達成させている
- ・右手と左手のリズムのかみあいがきわめて自然かつ  
m.9-12で音域上の変化もつけてある

## 完成度をさらに上げるために

- ・作品内容にあわせたダイナミック（*p*、*f*等）を振ろう
- ・発想記号も奏者の作品理解に資するのでつけてあげよう（ex. *mesto* 悲しげに）

- ・m.16 b.3-4左手

ペダル指定があるのでこれでよい



- ・m.14長三和音G<sub>9</sub>をはさみこむと  
より短三和音のしんみりとした世界が効く

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

たいへんよくできました。

持魔 勉